

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名		市道道路冠水対策事業			本年度担当課	道路河川課	
					前年度担当課	道路河川課	
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	02	住みやすい快適なまちづくり			実施計画・一般	実計計画事業
	施策	01	快適で質の高い住環境の整備			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	03	雨水排水路の整備			任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		
	一般	08	02	03	市道道路冠水対策事業		
事業計画		期間限定複数年度		事業期間	平成30年度 ~ 令和7年度		
根拠法令・条例等							

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
本事業は下水道で実施している雨水幹線の整備ならびに整備が完了した排水区域内において、雨水排水計画と整合を図った道路排水を兼ねた側溝等を整備することで、道路冠水や浸水被害の軽減を図ることを目的として事業開始となった。 また、本事業では、上記のような下水道計画区域以外で、道路冠水や浸水被害が発生している箇所においても、事業を導入し、被害の軽減を図る整備を行う。				道路側溝工事 L=170m							
活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)				
工事延長		m	286	170	240	310	300				
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
冠水対策を要する路線延長				対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
整備計画延長				m			286	170	240	310	300
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
道路冠水や浸水被害の軽減が図られる。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
整備済延長 (累計)				m		目標	286	456	696	1,006	1,306
						実績	286	456			
						目標					
						実績					
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
住環境の安全性を高めるため、雨水排水路の整備を推進する。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
雨水幹線排水路の整備率				%		目標	64.7	62.4	63.2	63.9	64.7
						実績	61.4	62			
						目標					
						実績					

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	24,600	24,600	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	40	62	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	24,640	24,662	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					工事請負費	20,988		
					委託料	3,674		
人件費	職員従事工数	人工	0.12	0.12	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	879	874	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	25,519	25,536	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	市道道路冠水対策事業	本年度担当課	道路河川課
		前年度担当課	道路河川課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	下水道課では、雨水幹線等の整備を進めているが、それに導く側溝等が整備されていない箇所では道路冠水や浸水被害が発生している。その対策として、雨水幹線整備と連携を図った道路側溝等の整備が急務であったことから事業を開始する事となった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	近年、土地利用の変化やゲリラ豪雨の発生により道路冠水や浸水被害が頻発しており、年々、その対策が急がれている。地球温暖化の影響もあり、道路冠水等の状況はますます増えていく事が考えられる。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	異常気象による大雨で、年に数回は道路冠水や床下浸水となり、市民からの被害報告や改善要望は年々増え続けている。また平成29年9月議会一般質問にて、植上町地内の道路冠水について、雨水幹線と道路側溝の整備を連携して進めると答弁している。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はあるが、統合・連携できない	公共下水道雨水幹線整備事業、市道道路改良事業	成果向上余地がかなりある	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
年次計画で計画している内容について、計画に従って執行している以外に、新たな、事業適応箇所を探す事ができなかった。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
年次計画で計画している内容について、計画に従って執行しているため。		現在は、下水道の事業と連携して、年次計画で計画している内容について、計画に従って執行していることから、着実に執行すれば目標の達成となる。 一方で、道路冠水は、計画以外の箇所でも起こっており、そういった箇所も調査して、整備の計画に載せていけば、現在の計画以上の成果を上げる事とはなるが、本事業は、全額起債で対応しており、期限が令和7年となっているため、今から上積の整備を行っていく事が難しい。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施）			
	中		○	* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	小						
		大	中	小	成果向上余地		

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名		田沼地区地域排水整備事業				本年度担当課	道路河川課
						前年度担当課	道路河川課
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	02	住みやすい快適なまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	快適で質の高い住環境の整備			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	03	雨水排水路の整備			任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業 区分
	一般	08	03	01	田沼地区地域排水整備事業		
事業計画		期間限定複数年度		事業期間	平成27年度 ~ 令和10年度		
根拠法令・条例等		佐野市公共物管理条例					

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
栃木県より、田沼地区の雨水による冠水被害を低減するために、排水路の断面拡張整備が実施される。市は応分の負担をすることによる必要な排水路を整備する。【第一工区】(H27~R4まで) 排水路 市負担分 1,710m 調整池 1箇所 【第二工区】(R5~R10まで) 排水路 市負担分 2,270m				【令和3年度繰越分】 ・栃木県への負担金として、8,050千円を支出した。 【令和4年度現年分】 ・栃木県への負担金として、27,100千円を支出した。						
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				水路を整備した延長	m	450	180	400	430	280
整備済の水路延長	m	1,530	1,710	400	830	1,110				
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
田沼市街地の雨水を菊沢川に放流するための水路				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				排水路計画延長	m	1,710	1,710	2,270	2,270	2,270
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
雨水排水路を整備して内水を速やかに河川に排水することにより、田沼市街地の冠水を低減する。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				排水路の整備率	%	目標 79.5 実績 89.5	100	17.6	36.6	48.9
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
住環境の安全性を高めるための、雨水排水路の整備を推進する。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				雨水幹線排水路整備率	%	目標 64.7 実績 61.4	62.4	63.2	63.9	64.7

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	46,900	33,300	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	2,500	1,850	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	49,400	35,150	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	35,150		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.03	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	219	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	49,400	35,369	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	田沼地区地域排水整備事業	本年度担当課	道路河川課
		前年度担当課	道路河川課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	田沼市街地を通る一般県道佐野田沼線が、豪雨のたびに下町交差点付近において冠水し、市民に多大な不便をかけている。これを解消すべく地域に流入する雨水を低減するため平成27年度より排水路の整備を行う。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	最近の天候不順により道路冠水が頻発しており、市街地の浸水対策が急がれている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	大雨のたびにパトロールを実施し、年に数回は道路冠水や床下浸水となり、市民からいつまでもたっても改善されないと苦情を言われる。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	「現状維持により対象外」

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上の余地がない」のため取組実績なし。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
・年次計画に基づき事業実施ができたため。		栃木県と情報共有を行い整備を促進していく。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		界地区道路排水路整備事業				本年度担当課	道路河川課	
						前年度担当課	道路河川課	
政策 体系	基本目標	05 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02 住みやすい快適なまちづくり				実施計画・一般	実計計画事業	
	施策	01 快適で質の高い住環境の整備				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	03 雨水排水路の整備				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	一部委託	
	一般	08	03	01	界地区道路排水路整備事業	事業分類	施設等整備事業	
事業計画		期間限定複数年度		事業期間	令和3年度 ~ 令和7年度			
根拠法令・条例等		佐野市公共物管理条例						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)													
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)								
栃木県による県道佐野古河線整備にあたり、県道と市道の排水を兼ねた排水路設備にすることで地域の道路冠水の解消を計る。県道排水路と調整池は、佐野市から市道排水分の負担金を栃木県へ支払い栃木県にて整備を行う。市で管理する水路については市で整備を行う。 県道部分 (負担対象) 692m 市道部分 (負担対象) 359m 合計 1,051m 調整池 1箇所 協定事業費955,310千円 (市負担金161,225千円)					活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
					排水路を整備した延長		m	0	0	0	415	636	
					整備済の排水路延長		m	0	0	0	415	1,051	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)													
県道及び市道の排水路					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
					排水路の計画延長		m	1,051	1,051	1,051	1,051	1,051	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)													
雨水排水路を整備して内水を排水することにより道路冠水を防止することで、市民の生活環境の安全が確保できるようにしたい。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					排水路の整備率		%	目標	2.1	33.7	100		
								実績	0	0			
								目標					
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)													
住環境の安全性を高めるための、雨水排水路の整備を推進する。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					雨水幹線排水路整備率		%	目標	64.7	62.4	63.2	63.9	64.7
								実績	61.4	62			
								目標					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		3,200		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	984		52		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	984		3,252		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	3,252						
人件費	職員従事工数	人工	0		0.03		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		219		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	984		3,471		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	界地区道路排水路整備事業	本年度担当課	道路河川課
		前年度担当課	道路河川課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	栃木県による県道整備事業に並行し市道の排水を兼ねた排水路を整備する事で、市民の安全な住民生活環境を確保出来るように開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	被災後の市民は、行政に対して災害の再発防止を強く要望していることから、施設管理者は今後の対応を慎重に行わなければならない。 また、事務事業を行うにあたり、国及び県等と密に連携する必要がある。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	市民からの冠水対策等の要望等がある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	「現状維持により対象外」

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
県事業ではあるが、用地交渉が少し進んでいるため。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
調整池予定地の買収が難航しているため。		関係者に対し事業への丁寧な説明をしていく。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施）			
				* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中		○				
	小						
		大	中	小			
		成果向上余地					

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		一般排水路維持補修事業				本年度担当課	道路河川課		
						前年度担当課	道路河川課		
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02	住みやすい快適なまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	快適で質の高い住環境の整備				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	03	雨水排水路の整備				任意・義務	義務的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			事業 区分	
	一般	08	03	01	一般排水路維持補修事業			実施方法	一部委託
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成20年度 ~			事業分類	施設維持管理事業
								市長公約	5-⑦
								総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 佐野市公共物管理条例									

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)									
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
調整池の維持管理 一般排水路、一般下水排水路及び幹線排水路の維持管理を行う。		調整池の維持管理 幹線排水路スクリーンの維持管理 一般排水路、一般下水排水路及び幹線排水路の維持管理 水路の工事、小破修繕、除草、浚渫、清掃等 (修繕料 9,049千円、委託料 17,790千円、工事請負費 8,605千円など事業費36,042千円を実施した。)							
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
		調整池清掃	箇所	12	12	12	12	12	
		幹線排水路スクリーン清掃	箇所	13	15	15	15	15	
		危険箇所の小破修繕	件	25	22	23	24	21	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)									
調整池 一般排水路、一般下水排水路 幹線排水路		対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
		調整池数	箇所	20	20	20	20	20	
		排水路スクリーン設置箇所数	箇所	15	15	15	15	15	
		排水路延長	km	不明	不明	不明	不明	不明	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)									
排水路を適切に管理することにより排水を速やかに河川等に流下させる。 調整池を適切に管理することで、設置の目的どおりに放流先の河川への流入量を調整する。		成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		調整池等清掃実施の割合	%	目標	60	60	60	60	60
			実績	60	60				
		幹線排水路スクリーン清掃実施の割合	%	目標	100	100	100	100	100
実績	100		100						
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)									
住環境の安全性を高めるため、雨水排水路の整備を推進する。		上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		雨水幹線排水路整備率	%	目標	62.8	64.7			
			実績	61.4	62				
		目標							
実績									

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	38,444	36,042	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	38,444	36,042	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	17,790		
					需用費	9,166		
				工事請負費	8,605			
				原材料費	413			
				役務費	68			
人件費	職員従事工数	人工	0	0.57	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	4,154	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	38,444	40,196	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	一般排水路維持補修事業	本年度担当課	道路河川課
		前年度担当課	道路河川課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	開始時期は、不明。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	一般下水排水路について、建設年度・構造等の全容が把握できない中、施設の老朽化が著しい。社会情勢の変化に伴い、これまで地域で行われていた社会資本の管理を行政に依存する傾向が著しく強くなってきている。土地区画整理事業、北関道建設等により管理する調整池が増えた。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	住民が設置した下水管（雑排水管）等の維持管理が出来なくなっており、市で管理してほしいとの要望が多い。除草の要望が急増している。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	「現状維持により対象外」

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
「前年度評価結果が「成果向上の余地がない」ため取組実績なし」			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
調整池、幹線排水路のスクリーン清掃が計画どおりできた。		計画を立て、業務委託で対応していく。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中						
	小						
	成果向上余地						
	大	中	小				



## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		一般排水路清掃支援事業				本年度担当課	道路河川課	
						前年度担当課	道路河川課	
政策 体系	基本目標	05 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02 住みやすい快適なまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	01 快適で質の高い住環境の整備				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	03 雨水排水路の整備				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	08	03	01	一般排水路清掃支援事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成17年度 ~			
根拠法令・条例等		佐野市下水道清掃補助金交付要領						

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
一般排水路を清掃する下水道組合に補助金を支出して支援する。また、2本の幹線排水路の清掃を、業務委託により、実施する。  ※下水組合とは、下水道清掃を実施する組合及び町会である。					一般排水路を清掃する下水組合に補助金を出して支援する。また、2本の幹線排水路の清掃を業務委託により実施する。						
					活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					清掃y幹線排水路	m	1,640	1,640	1,640	1,640	1,640
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
下水道組合					対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					下水道組合数	団体	21	17	17	17	17
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
下水道組合を支援することにより、その団体による自主的な一般排水路の清掃を促進する。					成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					清掃回数	回	目標 43	30	31	32	33
							実績 29	29			
							目標				
							実績				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
一般排水路を適切に管理することにより、雨水幹線排水路の集水能力が高まり、浸水対策に資する。					上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					雨水幹線排水路の整備率	%	目標	62.4	63.2	63.9	64.7
							実績	64.7	64.7		
							目標				
							実績				

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)		
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0		
	県支出金	千円	0		0		0		0		0		
	地方債	千円	0		0		0		0		0		
	その他	千円	0		0		0		0		0		
	一般財源	千円	687		669		0		0		0		
	事業費計(A)	千円	687		669		0		0		0		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
					負担金、補助及び委託料	402							
						268							
人件費	職員従事工数	人工	0		0.02		0		0		0		
	人件費計(B)	千円	0		146		0		0		0		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	687		815		0		0		0		

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	一般排水路清掃支援事業	本年度担当課	道路河川課
		前年度担当課	道路河川課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和30年頃。きっかけは不明。開始当時の衛生課から下水道課へ事業が移管され、その後、平成20年度に道路河川課へ事業が移管された。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	地域コミュニティの低下、組合員の高齢化等により、清掃活動が、年々困難になってきている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はあるが、統合・連携できない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が成果向上余地がないため取組実績なし			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		公共下水道雨水幹線整備事業				本年度担当課	下水道課		
						前年度担当課	下水道課		
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業		
	政策	02	住みやすい快適なまちづくり			実施計画・一般	実計計画事業		
	施策	01	快適で質の高い住環境の整備			市単独・国県補助	国県補助事業		
	基本事業	03	雨水排水路の整備			任意・義務	任意的事業		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		実施方法	一部委託	
	下水	XX	XX	XX	公共下水道雨水幹線整備事業		事業分類	施設等整備事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和46年度 ~			市長公約	5-⑦
根拠法令・条例等		下水道法、都市計画法							

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
本事業は、降雨による浸水被害の解消・防止を図るため、雨水幹線を整備することを目標としています。実施にあたっては、下水道法等関係法令による事業認可等を取得し、その区域内の幹線整備を実施します。				・令和3年度の明許繰越により、東部4号雨水枝幹線築造工事L=8.2m、東部14号雨水枝幹線築造工事L=160.2mを実施しました。 ・令和4年度事業として、東部9号雨水枝幹線築造工事 (犬伏下町) L=165.0m、(栄町) L=5.7m、中部1-1号幹線の水路拡幅工事L=51.5m、東部4号雨水枝幹線築造工事L=10.65mを繰越工事としました。 (令和5年度への繰越額: 126,270千円)							
				活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				公共下水道で整備した幹線延長	m	78.3	168.4	302	200	200	
他事業で整備した幹線延長	m	0	0	0	0	0					
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
公共下水道全体計画の内、雨水幹線に関する事業認可等を取得した区域内の土地。				対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				全体計画雨水幹線延長		m	28,532	28,532	28,532	28,532	28,532
				事業認可雨水幹線延長		m	17,340	17,340	17,340	17,340	17,340
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
雨水幹線が整備された区域とする。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				公共下水道で整備した総延長 (累計)		m	目標 64.7	62.4	63.2	63.9	64.7
				他事業で整備した総延長 (累計)		m	実績 12,873	13,042			
				他事業で整備した総延長 (累計)		m	目標 4,658	4,658	4,658	4,658	4,658
						m	実績 4,658	4,658			
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
住環境の安全性を高めるため、雨水排水路の整備を推進する。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				雨水幹線の整備率		%	目標 64.7	62.4	63.2	63.9	64.7
				整備済延長/総延長		%	実績 61.4	62			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)			
	国庫支出金	千円	35,364	30,236	0	0	0			
	県支出金	千円	0	0	0	0	0			
	地方債	千円	79,100	69,600	0	0	0			
	その他	千円	20,745	24,929	0	0	0			
	一般財源	千円	0	△124,765	0	0	0			
	事業費計(A)	千円	135,209	0	0	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
人件費	職員従事工数	人工	2	2	0	0	0			
人件費	人件費計(B)	千円	14,654	14,574	0	0	0			
トータルコスト(A)+(B)	千円	149,863	14,574	0	0	0				

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	公共下水道雨水幹線整備事業	本年度担当課	下水道課
		前年度担当課	下水道課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	土地利用の形態が都市化等により変化したことから、浸水被害の発生が見られるようになったことによる。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	土地利用の変化は進んでおり、被害の発生が顕著になってきている。また、ゲリラ豪雨の発生により、浸水区域の拡大や被害の発生していなかった区域でも見られるようになってきた。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	土地利用の変化は進んでおり、被害の発生が顕著になってきている。また、ゲリラ豪雨の発生により、浸水区域の拡大や、被害の発生していなかった区域でも見られるようになってきたことから、市民や議会より整備実施の要望がある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	市道道路冠水対策事業	成果向上余地がかなりある	向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
予算を増額することで成果を向上させることはできるが、財政状況や社会情勢、現場状況等を踏まえた予算規模とすることも必要である。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
予算規模は微増としているが、建設資材や人件費の上昇により工事費がかさみ、整備延長が伸び悩んでいる。		事業量に応じた予算確保および関係機関との調整が必要。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
	大 中 小 成果向上余地				